

平成19年2月7日
漂流・漂着物対策特別委員会 資料

対馬市における漂着ごみの現状と対策



▲海水浴場に漂着した使用済注射器(厳原町)

長崎県対馬市

対馬市における漂着ごみの現状と対策

1. 対馬市の概要

対馬は、日本海の西に浮かぶ南北82km、東西18kmの細長い島で、北は朝鮮海峡をはさんで朝鮮半島に面し、南は対馬海峡をはさんで壱岐島、九州本土に面しています。

海岸は複雑な入り江を持つリアス式海岸でその延長は915kmにもなります。

また、対馬から福岡までの距離は138kmですが、対馬から韓国の釜山まではわずか49.5kmです。

対馬、特に北西部には海流や冬期の季節風の影響により、膨大な量のごみが漂着しています。



対馬市北部の上県町の海岸に漂着した発泡スチロール製漁業用フロート、ポリ容器など

2. 対馬市の取り組み

対馬市では、平成13年度から県の補助金を活用して、漂着ごみ撤去事業を実施しています。

また、平成15年度から韓国の釜山外国語大学の学生、住民ボランティアの協力を得て、海岸の漂着物の回収を行っています。

平成18年度は韓国側から釜山外国語大学、東亜大学、日本側から長崎県内の大学、鹿児島大学の学生が参加して、「第1回 日韓学生つしま会議～漂着ごみを拾う・考える～」を長崎県と共催、漂着ごみの回収のほか、漂着ごみの削減策について話し合うワークショップなどを行いました。



「第1回 日韓学生つしま会議」より

左：厳原町豆酲での回収作業

右：どうしたら海のゴミは減る？ワークショップのひとつコマ